

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4271401277		
法人名	(有)あつぷる		
事業所名	グループホーム ありあけ		
所在地	島原市有明町大三東丙470番地1		
自己評価作成日	平成29年11月24日	評価結果確定日	平成30年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokekka.nsf/aResult?OpenAgent&P=1
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14番12号
訪問調査日	平成29年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院の跡地で昔からの付き合いが続いており 近隣からお花・野菜等を頂き職員とも親しい関係です。入所者も近隣の方が数人いらっしゃる面会時本人以外でも話が弾み和やかな雰囲気になってます。その人にあった散歩・ドライブ等四季折々の風景を楽しんでもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念がスタッフ全員に浸透し、各スタッフが理念に沿った目標を定め日々の支援に繋いでいる。回覧板で「ホーム便り」を提示し、ホームを地域住民に知ってもらい、ゴミ置き場の清掃を行う、隣接する公民館の敷地をホームが自主的に整備する等、地域に貢献し地域住民に喜ばれている。ホームは地域住民として、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っている。家庭的な雰囲気の中、スタッフ間のコミュニケーションが図られ相談しやすい環境が整っている。これが10年以上の長期間に渡って勤務するスタッフの確保に繋がっている。主治医や看護師、スタッフ間の連携が密に行われ、これまで3名の看取りの実績がある。スタッフは自主的に看取りに立ち会い、見送りまで行っている。排泄の自立や車いすから歩行できるように支援する等、可能な限り残存能力を活かした支援をしている。入居者とスタッフの笑顔あふれるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「毎日笑顔で安心して過ごしましょう」を理念とし目の届くところに掲示し職員は一日に一回は目を通し毎日の仕事に反映するようにしている。	理念は設立時に代表とスタッフで話し合い作成している。理念を、より理解し易いように5つの項目を挙げ、入居者や家族、スタッフの目に付く所に掲示している。スタッフは自主的に理念に沿った目標を定め、毎日の支援に活かしている。職員会議時に理念に基づいた支援内容を検討し共有する事で理念に沿った支援に繋いでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週2回のごみ置き場の清掃作業・中学生職場体験の受け入れを行い、地域との繋がりを持っている。ホーム便りを発行し地域の方に様子を伝えています。	自主的にゴミ置き場の清掃を行う、隣接する公民館の敷地を整備する等、地域に貢献している。地域とは設立前から繋がりが有り、野菜や花等の差し入れや、「ホーム便り」を回覧板で提示し地域にアピールする等、地域で必要とされる活動や役割を積極的に担っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験や高校生の初任者研修の受け入れを行っている。入所者と一緒に自治会の行事に参加して顔見知りになってもらうようにしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族・自治会・役所の方々に出席して頂き、現況報告を行い出席者からの意見・アドバイスを聞きサービスの向上に活かしている。	家族、自治会長、町内会班会長、行政等の参加がある。地域から出た要望を受け職員会議で改善策を検討する、地域の災害訓練後、安全な避難場所について運営推進会議で話し合い共有する等、双方向的に話し合い、サービス向上に具体的に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き家族との会話の中で気になることなどを相談し、アドバイスをもらっています。	運営推進会議により、市の職員とは顔なじみの関係が作られ、相談しやすい環境が整っている。市の制度について相談する等、市との協働関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に交代で参加してもらい、職員会議で報告し、資料も職員で共有できるようにしている。玄関すべてに鍵をかけず、自由な暮らしを支援している。	「身体拘束に関する考え方」を掲示してスタッフへの意識付けを行っている。外部研修にスタッフが参加しやすい環境を作り、研修内容は全スタッフで共有している。転倒リスクが高い入居者の居室にクッション材を敷き詰める、帰宅願望のある入居者には付き添って散歩をする等、入居者の動きに合わせて、全スタッフで支援方法を考え、内容を統一している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体・言葉の拘束ゼロを意識して、職員同士が声かけあいながら、虐待が見過ごされないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会で制度を学んでもらっている。利用者からの相談及び必要と思われるときは社会福祉協議会・役所に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は説明を行っているがどこまで理解されているかわからない。持ち帰り、読んで頂くようにしている。介護報酬の改定時にも文章でしらせ、面会時でも説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しているが苦情はない。面会時職員は家族へ積極的に情報提供や 声かけを行い意見 要望を言えるような雰囲気作りに努めています。	家族から、外出の機会を増やして欲しいとの要望を受け、スタッフの勤務体制を検討して外出の機会を増やす、入居者の好きな食べ物を出して欲しいとの要望には献立を検討する等、家族から出された意見や要望をサービスの質の確保・向上に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見 提案は月一回の職員会議で話し合い可能な限り運営に反映している。	3ヶ月に1回食事会を設けてスタッフ間の親睦を深め、意見や要望を言いやすい環境を作っている。スタッフが希望する物品を購入する、スタッフの要望で、入居者の動きに合わせた手すりを居室に設置する、スタッフの状況に合わせて勤務体制を検討する等、スタッフの意見を取り入れ運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を出来るだけ勤務表に取り入れ、旅行、スポーツの楽しみができるようにしている。3か月に一度の食事会を設け職員の親睦を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外の研修会の情報を提供し多くの職員が参加できるように勤務の調整を行い職員会議で研修報告をし閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	半島・市内と連絡協議会があり月一回の会議に参加し議題を持ち寄り情報交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がおかれている状況を理解し、心身の状態や思いに向き合い職員が本人に受け入れられるような関係作りに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や経緯についてゆっくり話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な方は、担当者・病院と連携を取り、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉使いに気を付け、その人に合った話のなかで、思い・不安などを共有し共に支えあう関係になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告・相談し、本人との会話が途切れそうな時は、一緒に話に入りエピソードを交えながらその場を和ませている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達に手紙を書かれる方には、スタッフが本人の様子を書いた手紙を同封して貰ったり、手紙が届いたら、本人の要望と一緒に読ませて頂き友達との関係が途切れないよう支援している。	昔からの友人が頻繁に訪問する、家族と外食や法事に出かける、自宅にお連れする、通院の帰りに外食する等、地域との接点を持ちながら関係を継続させるための支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事中ゆっくり食事する人に声をかけてくれたりティッシュの必要な人に取ってあげたり、利用者同士がお互いに助けあっている。食事は指定席ですが、たまに間違った席に座る方もあるがその方が席に近づくとき快く譲ってくれている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に移られた場合職員が病院に会いに行き家族の思いや相談に応じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で声をかけ把握に努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族から情報を得るようにしている。	入所時には似顔絵を描くようにしている。いろいろな表情をくみ取り、言葉で伝えられない思いを把握しながら職員間で情報を集約して日常生活の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今迄の生活歴やライフスタイル、個性を家族を交え話し合いその人に合った生活が出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを理解出来ること・出来ないことを見極め、その人に合った暮らしが出来るようにその日の申し送り・連絡ノートなどで全職員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は通常3カ月に一度だが変化があれば作成している。モニタリングは毎月職員全員で行い本人家族の意向に沿った計画を立て、統一したケアに努めている。	介護計画と日常の日誌記録などが統一のファイルに収められ、日常の支援が具体的目標に沿って支援が行われている。月一の会議の際も意見を出し合い介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態・変化は個々のケア記録に記載し職員間の情報共有を徹底している。それを元に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じて、通院・帰宅等、必要な支援は柔軟におこなう。家族の面会が食事と重なった場合は一緒に食べられるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の花見の参加でカラオケを楽しんだり、足湯を利用したりしている。介護保険以外の情報も把握し家族にお伝えしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医となっており受診・通院は職員が代行し結果を報告している。訪問診療に来て頂く方もあります。	入所前から関わっていた病院をかかりつけ医院として継続している。通院時は職員が介助して行っている。家族とも同行したり、結果を連絡したり連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。夜間の対応も行い、早期発見早期治療が出来る体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、職員の時間が許す限り見舞うようにし、安心して頂いています。家族と回復状況など情報交換しながら速やかな退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携をとり、安心して終末期を迎えられるように支援し体制を整えている。	看取りの指針があり、同意書も取り交わしている。本人、家族と医師、訪問看護スタッフが連携し、24時間体制で支援が行われている。必要時は近隣のスタッフが駆けつけられる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急手当・蘇生術の研修を実施し、看護師も常勤しており、緊急時にも対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年4回の避難訓練を行い、2回は夜間想定で行い年1回は、消防署立会いのもと、消火器の使い方等の訓練を行っている。	夜間を想定した避難訓練も定期的に行われている。避難経路もあらゆることを想定し解りやすく図解して掲示されている。入居者の情報や関係者、スタッフの連絡網も一つのファイルにまとめ持ち出しやすいように設置している。備蓄も食料品や毛布類なども備えている。	地震災害を想定した計画はあるが、実際の訓練が実施されていない。あらゆる災害を想定した避難訓練を実施するよう期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を傷つけないよう、目立たず、さりげない言葉かけや対応に配慮している。	入浴時なども同性介助で支援ができるよう工夫している。気分が乗らない時でも入居者の気持ちに寄り添い無理をしない支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きなメニューを取り入れたり、外出等本人の希望に沿った支援をしている。充分に意思表示が出来ない場合でも一人ひとりの状態に合わせ、本人が答えやすくなるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、外出・散歩・休息 新聞読み・イージーウォーク等個別の対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望で外部の理・美容院へ行き、他の人は訪問でお願いしている。髪型も自由に言えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングと台所が続いており、その日のメニューも伝わり楽しみにされてます。食事の準備・後片付けも手伝って貰ってます。	日常生活の中から好きなものを聞き出し、献立に取り入れている。地域の方から野菜などの差し入れがありと食材を活かした調理が行われている。入居者とスタッフがともにテーブルを囲み楽しく食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	透析の人がいるため、定期的に病院に出向き栄養のバランスの調整を行っています。食器・スプーン・箸等その人に合わせスムーズに食事が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアにはスタッフが付き添いその人に合った支援を行っている。週一回義歯の消毒・口腔ケア用品の消毒も行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本にしているが、尿意の無い人には、排泄記録を参考に声かけ誘導を行っている。パット類もその人に合わせて、種類を変えている。	排泄チェックを参照してトイレでの排せつを主に支援を行っている。おむつを使用していた方でもトイレでの排せつを心掛けおむつの使用を軽減していく工夫がされ自立に向けた支援が行われている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヤクルトは毎日提供し、食事やおやつに繊維質の食材を使い便秘対策に取り込んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一週間の予定は立てているが、体調不良、拒否の方のタイミングにあわせ、毎日入浴できるようにしている。	週2～3回の定期的入浴の他に必要時はいつでもお湯が使えるように設備を整えている。入浴拒否のある方でも足湯をしたり、スタッフと1対1で対応し会話を楽しみながら支援ができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の外出・入浴・面会等で疲れ具合を見極め個別に休息を取ってもらっている。夜、お休み前はゆっくりテレビみたり職員と会話をしたりして心地よく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬予防に、必ず2人及び本人との確認を徹底し、飲み込む迄見守りを行う、在宅ケアサポート薬局を利用しており、気になるときはいつでも相談に応じてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別のケアに努め、読書、台所の手伝い、洗濯たたみ等、職員と一緒にやっている。隣席のお世話、モップ掛けが毎日の役割になっている方もいらっしゃいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出しお土産を買うのが楽しみに出かける人、ドライブに行き外でおやつを食べるのが楽しみな人 それぞれの希望に沿った支援を行っている。時には、つつじ・紅葉見物に雲仙までドライブに行きます。	家族と共に冠婚葬祭に出かけたりしている。天気が良ければ近隣を散歩する機会を増やし、外気に触れるよう心掛けている。近隣の方と声を掛け合ったり、季節の花見や足湯に出かけたりしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診時、お金の管理のできる方には支払って貰い、出来ない人には家族から預かっていることを伝え安心してほしい物が買えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠い家族から贈り物が届いた時は、必ず電話し職員もその場で話のつなぎをし、今の状況など伝えている。宛名を書いたり、一緒に文章を考えたりして、手紙のやりとりができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所者といっしょに作成した季節の壁飾りを廊下やリビングに貼り、居室入り口には手作りの季節感のある表札を付けている。部屋の温度・明るさは個別に調整し、夜間のテレビの音量も利用者さんと相談し調整して貰っている。	季節の飾りつけも入居者とスタッフが協力して製作している。窓が大きく自然光を取り込むようにしている。部屋の真ん中に机がありスタッフも記録をしたり、ともに過ごす家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全部の人が大体居場所が決まっており「あなた、ここよ」と先に座っている入所者が声をかけてくれている。隣同士で話が弾んでいることが良くある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室にあるテレビ・家具は家から持ってきたものを使っている。家族からの絵手紙、家族と一緒に写った写真なども、見える所に貼りいつでも目が届くようにしている。	家族からの写真やはがきを飾ったり その人らしく居心地の良い部屋づくりに取り組んでいる。なじみの家具やスタッフよりメッセージが書かれた色紙もあり温かい雰囲気づくりが配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	狭い廊下を利用し、歩行訓練に手摺を上手に活用している。トイレ・自室には名札を付けて対応し 車椅子・押し車との接触を防ぐ為、テーブルの位置にも気を配っている		